

山中康司「テクニカル分析に強くなるオートチャーティスト」 更新日：4月19日



1982年慶応義塾大学卒業後、アメリカ銀行に入行。トレーディング業務に従事し、1989年バイスプレジデント。1997年日興証券に移り、1999年日興シティ信託銀行為替資金部次長。2002年金融コンサルティング会社アセンダントを設立、取締役役に就任。

■オートチャーティストとは、

オートチャーティストとは SaxoTraderGO で取引できる商品のチャート分析を自動で行い、確率が高いと考えられる売買戦略を表示する取引支援ツールです。チャート分析はテクニカル分析でも最も基本かつ重要なチャートパターン（各種の反転、継続パターン）、キーレベルパターン（トレンドライン）、フィボナッチパターン（リトレースメント等）が完成した場合、あるいは形成中に一覧表示されます。一覧表示では、各種パターンの詳細、取引を行う場合のターゲット等の情報が表示され、表示する情報をフィルターで絞り込むことが可能です。この売買戦略レポートでは、この一覧表示の中から翌週にも有効と考えられる通貨ペアを毎週3通貨ペア、ピックアップしていくこととします。

- [10分でできるオートチャーティスト・クイックマニュアル](#)
- [オートチャーティスト・完全ガイド](#)
- [オートチャーティスト・チャートパターン分析入門](#)

■先週のレビュー

まず、先週のストラテジの振り返りです。

（１）EURJPYの買い（シグナル点灯4月10日）TP=133.08、SL=129.99

先週執筆時点のレートが132.195、その後のレンジは131.789～132.989と12日の執筆時点からじり高の動きとはなっているものの、どちらの仕切水準にも到達していません。TPまであとわずかの距離ではありますが、これまで同様に執筆時点のレートで仕切ることとします。現在は高値圏にあり132.944、+74.9pipsの利益となります。ドル換算ではUSDJPYが107.475ですから+69.7pipsです。

（２）EURSEKの買い（シグナル点灯4月11日）TP=10.3326、SL=10.2518

先週執筆時点のレートが10.29639、その後のレンジは10.25058～10.48099でした。残念ながら安値が10日、高値が13日とSLが先についてしまいました。ワンタッチでしたが負けは負け、

445.9pips の損失で終わりました。こうしたケースは、見方は正しかったものの SL の水準も含めて仕切りの水準が近すぎたというパターンです。ただ、日足と違って 4 時間足ですから狭い値幅も仕方ないでしょう。ドルに換算すると USDSEK がですから 8.31612 と -53.6pips です。

(3) 戦略 : GBPEUR の売り (シグナル点灯 4 月 11 日) TP=1.1409、SL=1.1505
先週執筆時点のレートが 1.14679、その後のレンジは 1.14562~1.15984 と、SL が 12 日についています。37.1pips の損失となりました。この損失額は EUR ですから、ドル換算すると EURUSD が 1.23209、-45.7pips の損失です。

今週の損益合計をドル換算で考えると、EURJPY+69.7pips、EURSEK は-53.6pips、GBPEUR は-45.7pips ですから、合計では-29.6pips (ドル換算) となり、わずかではありますが初のトータルで負けとなりました。なお、損益の換算と合計は同じ金額で取引を行った仮定での計算です。通貨ペアごとにドル換算して同じ金額にすることは面倒ですから、参考値としてご覧いただければと思います。

■ドルでの換算

先週、今週と損益の換算で「ドルでの換算」という言葉が出てきて初心者の方はちょっと面食らったかもしれません。先週のレビューではすべてが EUR の買いではありましたが、通貨ペアの表記の違いと通貨そのものの違いで分かりにくいと思います。ここでは為替の通貨表示の話まで立ち返り、換算方法についてまとめておきましょう。

今回登場した通貨は EURJPY、EURSEK、GBPEUR の 3 つの通貨ペアですが、換算にあたって USDJPY、USDSEK、EURUSD も使っています。一般的にインターバンクでの為替取引はほぼすべてがドル建てで行われています。基軸通貨が米ドルですから当たり前ですが、皆さんが FX の取引をする時には、その裏側で対ドルどうしの通貨ペアを合成して様々なクロスが提示されていることになります。

通常 USDJPY のように 1 ドル●円というような表示を自国通貨建てと呼び、EURUSD のように 1 ユーロ●ドルのようにドルを変動させる表示を他国通貨建てと呼びます。しかし、様々なクロスが出て来ると何が自国で何が他国か訳がわからなくなってしまうので、左側が外貨、右側が自国通貨という前提で考えてください。

すると (1) EURJPY で+74.9pips ということは、この利益は右側 JPY ですから、ドルに換算するには USDJPY のレートで割ってあげればよいですね。 $74.9 \div 107.47 = 69.7$ 、つまりドル換算すると+69.7pips となることがわかります。次の (2) も同様です。EURSEK で 445.9pips の損失は右側の SEK ですから、USDSEK がわかればよいわけです。同じ要領で $445.9 \div 8.31612$

=53.6pips となります。

やや違うのが(3)で GBPEUR で 37.1pips の損失、右側は EUR ですから EUR の損失を USD に変換しますが、EURUSD では 1 ユーロが 1.23209 ドルです。つまり $37.1 \times 1.23209 = 45.7\text{pips}$ の損失となります。この例でわかると思いますが、ドルが自国通貨建て表示の場合は割り算、ドルが他国通貨建て表示の場合は掛け算の換算です。それぞれ割り算通貨、掛け算通貨とインターバンクと呼ばれることも覚えておくとよいでしょう。

■今週の特徴

今週ピックアップした通貨ペアは全て GBP クロスの 4 時間足です。3 つとも GBP 売りとなっているものをピックアップしました。現在 GBPUSD は週間高値 1.4377 まで上昇し、ブレグジットの国民投票(2016 年 6 月)で急落する前の水準に戻っています。また今回のピックアップとは関係ありませんが EURCHF も 1.1992 まで上昇し、これはスイス中銀が絶対介入水準 1.20 を放棄した(2015 年 1 月)水準に戻ってきました。

これもピックアップとは直接関係ありませんが、GBPUSD の週足をご覧ください。



ラインマーカーのバーが国民投票での下げです。全値戻し状態となっていることがわかります。

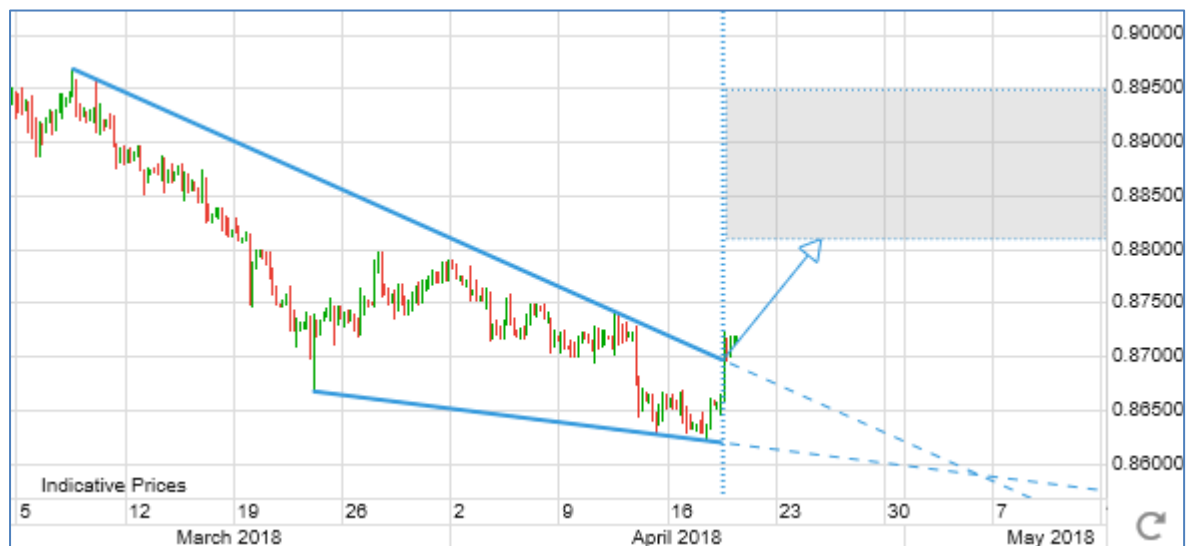
このように市場を揺るがすような大イベントの水準に戻ってきているということは、市場参加者の多くがそのかつての大イベント時の水準をターゲットにポジションを積み上げてきたことに他なりません。つまり、今後もトレンドは継続しても、短期的にはいったん落ち着きどころに近く調整の利食いが入りやすいということが言えます。

今回は GBPUSD が一段高となる前に、いったん調整で売りが入る可能性を考えたピックアップとなっています。今回もすべて 4 時間足、確率が 65% 以上で直近にシグナルが出ているものとなります。

今回もすべてクロスですが、トップバッターは EURGBP、2 番打者が GBPCHE、3 番が GBPNOK とマイナー打者が揃っていますが、クリーンヒットを打ってほしいところです。

■今週のピックアップ

(1) EURGBP の買い



チャートパターンとしては「下降ウェッジ」の上抜けによる EUR 買い（GBP 売り）シグナルです。先週の GBPEUR の売りと同じ方向ですが、今週はわかりやすい一般的な EURGBP でのシグナルとなっていますが、先週のダマシにひっかかったリベンジも込めてのピックアップです。短期的にグレーのゾーン（下端 0.8809）をターゲットとする動きが 63 時間以内と指摘されています。

戦略：EURGBP の買い（シグナル点灯 4 月 18 日）執筆時点 0.87195

TP=0.8809、SL=0.8621

余談になりますが、先週の GBPEUR で考えるなら、1÷EURGBP で各水準が得られます。

執筆時点=1.14685

TP=1.13520、SL=1.15996

今週は計算だけですが、トレーダーの適性に計算に強いということもあると思いますので、慣れてください。

(2) GBPCHF の売り



チャートパターンとしては「上昇チャンネル」の下抜けによる **GBP 売り**です。EURGBP とちょうど逆方向で似たようなチャートパターンとなっています。短期的にグレーのゾーン（上端 1.3684）をターゲットとする動きが 10 時間以内と随分と短い期間で指摘されています。

戦略：GBPCHF の売り（シグナル点灯 4 月 18 日）執筆時点 1.37486

TP=1.3684、SL=1.3837

なお、EURCHF も調整が入りやすいとすると、その場合は **EUR 売り CHF 買い**となりますので GBPCHF はその点でも **GBP 売り+CHF 買い**と、戦略としてよさそうです。

(3) GBPNOK の売り



チャートパターンとしては「上昇チャンネル」の下抜けによる GBP 売りです。GBPCHF と同じパターンと言えます。こちらは短期的にグレーのゾーン（上端 10.8928）をターゲットとする動きが 50 時間以内と指摘されています。

戦略：GBPNOK の売り（シグナル点灯 4 月 18 日）執筆時点 11.0152

TP=10.8928、SL=11.1711

ということで、GBP クロスもですが GBPUSD の動きが気になる一週間となりそうです。

【本レポートについてのご注意】

- 本レポートは、投資判断の参考となるべき情報提供のみを目的としたものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。
- 本レポートは、作成時点において執筆者およびサクソバンク証券（以下「当社」といいます。）が信頼できると判断した情報やデータ等に基づいて作成されていますが、執筆者および当社はその正確性、完全性等を保証するものではありません。また、本レポートに記載の情報は作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。
- 本レポート内で示される意見は執筆者によるものであり、当社の考えを反映するものではありません。また、これらはあくまでも参考として申し述べたものであり、推奨を意味せず、また、いずれの記述も将来の傾向、数値、投資成果等を示唆もしくは保証するものではありません。
- お取引は、取引説明書および約款をよくお読みいただき、それらの内容をご理解のうえ、ご自身の判断と責任において行ってください。本レポートの利用により生じたいかなる損害についても、執筆者および当社は責任を負いません。
- 本レポートの全部か一部かを問わず、無断での転用、複製、再配信、ウェブサイトへの投稿や掲載等を行うことはできません。